

SSKO

栃木ダルク

ニュースレター 第105号(2012, 1,

Grow up!!

Drug Addiction Rehabilitation Center
DARC

薬物依存症の本質 本能狂わす怖さ

栃木ダルク 理事長 栗坪千明

・最近の栃木DARCへの相談の中に、合法ドラッグと呼ばれる薬物に関するものが少なからずある。合法であれば依存症も軽いと思われるようで、中には、違法か合法かにとってもこだわる方がいる。

・薬物乱用という見方からすれば、違法か合法かという分け方は重要なものかもしれない。しかし、私たちのような依存症にかかわる者にとってはあまり重要ではない。確かに違法な薬物には依存性が高いものも多いが、それだけで違法になっているわけではなく、よからぬ団体などの資金源になっていたり、精神作用が強すぎたりといった理由もある。

・では合法のものはどうかというと、依存性という点でいえばアルコールの方が覚せい剤よりも高く、飲み続けていけば誰でもアルコール依存症になる。また、大麻よりも依存性の高いハーブやサプリなどもある。違法か合法かという物差しでは依存性を計ることはできない。

・人は何かの物質に依存しなければ生きていけないのも事実である。水や空気がなくなれば即、死んでしまう。薬物は「生き死に」を左右するものではないが、使わないと死んでしまうのではないかと脳が勘違いしてしまうほどの効果があるのである。栄養を取り込むために必要な食べ物さえ正常に取らなくなり、拒食や過食といった摂食障害を引き起こす。

・依存症の本質は違法、合法という問題ではなく、精神に作用して本能を狂わせ、日常生活に支障を来しているにもかかわらず、その行為をやめられないという事なのだ。警察に捕まるから怖いという観点から脱却し、依存症という病になるから怖いという見方に変えていかななくては、薬物の問題は正常な方向に進まないだろう。

(了)

2010年11月1日東京新聞掲載